

第1回 鳥羽市水道事業ビジョン検討委員会 議事概要

日時	令和2年10月19日(月) 10:00~12:10
場所	鳥羽市役所西庁舎 3F 中会議室
参加者	検討委員：宮岡委員 清水委員 世古委員 前田委員 中村委員 東海メンテナンス株式会社：田所オブザーバー 徳谷営業部長 鳥羽市水道組合：中村オブザーバー 第一環境株式会社：佐藤オブザーバー 阿部中部支店長 事務局：浜口課長、杉田課長補佐、西根係長、重見係長、河原
概要	1. 開 会 2. 委員委嘱 3. 委員あいさつ 4. 委員長の選出 5. 鳥羽市水道事業ビジョンの策定について 6. その他 7. 閉 会
資料	資料1 鳥羽市水道事業ビジョン(案) 資料2 鳥羽市水道ビジョン(H24.3策定)の取り組み評価 資料3 鳥羽市市民意識調査 資料4 実現方策案

議事概要

1. 開 会

課長あいさつ

おはようございます水道課長の浜口でございます。

本日は大変お忙しい中、「鳥羽市水道事業ビジョン検討委員会」にご出席いただきありがとうございます。

また、検討委員会へのご参加をお願いさせていただきましたところ、皆さま快くお引き受けいただきましたこと感謝申し上げます。

はじめに、水道事業ビジョンについて、簡単にご説明させていただきたいと思いますが、平成16年に国のほうから「水道ビジョン」を策定するよう通知があり、平成24年に平成37年度までの「鳥羽市水道ビジョン」を策定しました。その中で水道事業が目指す方向を示し、それをもとに事業を進め、今に至っていますが、平成25年に国が「新水道ビジョン」を策定しました。人口減少や大規模災害など、環境の変化に対応し、「安全」、「強靱」、「持続」をキーワードに次世代に継承するということを目的にしています。

今回、鳥羽市においても総合計画の見直しを進めており、これと紐づけて「水道事業ビジョン」を新たに策定したいと考えています。

水道は生活を支える「ライフライン」として、無くてはならないものです。「蛇口をひねればいつでも飲める水が出る」というあたり前のことを将来にわたって継続できるように、皆さまと一緒に考えていきたいと思っています。今日は自由なご意見をお聞かせいただきますようお願いし、挨拶とさせていただきます。

2. 委員委嘱

《委員委嘱・オブザーバー任命》

3. 委員あいさつ

《各委員・オブザーバーから自己紹介》

《続いて事務局自己紹介》

4. 委員長の選出

《立候補、推薦が無かったため、事務局から宮岡委員を委員長に提案し了承された》

委員長

委員長に就任にいたしました。地域に密着した水道事業ビジョンになるように作っていただきたいと思います。三重県は南北に非常に長いので、先ほど課長さんから「蛇口をひねれば当たり前のように水が出る」という話がありましたが、地域によって水の在り方や使い方など、業態によって異なります。そういう観点でいろんなご意見をいただきながら、地域にあったビジョンを作っていきたくと考えています。

事務局から聞いているところでは、委員の皆さまは普段から顔を合わせる機会も多いということなので、ざっくばらんにいろんなご意見をいただけるものと期待していますのでよろしくお願ひします。

5. 鳥羽市水道事業ビジョンの策定について

(1) 水道事業ビジョンの概要について

《事務局より、国計画や総合計画との関連など計画全体の概要について説明》

委員長

先ほど、事業計画や財政計画は載せないと説明いただいたが、国から示された水道事業ビジョンに盛り込む項目には「将来の事業環境」に資金の確保というのがある。これは水道基本計画に記載することで代えるということでしょうか。

事務局

年度ごとの収支は基本計画に記載し、ビジョンでは言葉で表現するイメージでいる。
具体性というところは基本計画に委ねるようにしたい。

委員

計画期間が長期になるが、市民意識調査の頻度はどのように考えているのか。
今回アンケートがついているが、どのような想定か。

事務局

毎年、総合計画の市民意識調査を企画財政課で行っている。重要度・満足度について5段階で評価してもらっている。今回は新たに水道課の項目を追加して9月に調査を実施した。
定期的に意向確認を行うことも重要だと思うので、またその方法は考えたい。

委員

人口減少のスピードがとても速いので、そうした点を捉えてビジョンを進めていくとよいと思ったので発言した。

オブザーバー

先ほど中村委員が言われたアンケートの頻度については、フォローアップのところで書かれているPDCAと関連してくると思う。そこで、どのタイミングで評価をするのがいいかということを考えることなのかと思う。

委員

総合計画は来年度のスタートに向けて策定している。財政計画はビジョンではなく基本計画に入れるということだが、事務作業はいつぐらいになるのか。
また、現ビジョンをみていると事業環境は悪くないが、現状は収支の状況はどうとらえているのか。
ビジョンを策定するうえで課題と感じていることはあるか。

事務局

基本計画で実際の年度の収支を立てるという作業については、現在も現ビジョンの下での基本計画は作っており、その中で年度ごとの収支も作ってある。今回、上にくるビジョンが変わるので基本計画の組み立てを変える作業というイメージである。ビジョンを年度内に策定するので並行して進めるということでご理解いただきたい。

事務局

経常収支比率については、令和元年度で118%ということで、平成22年ころよりは下がっているという傾向はある。コロナ対策などを行ったうえでの令和2年度上半期の状態も、様子を見ていく必要はあると感じているが、経営が傾くような状態ではない。

事務局

「課題は何か」という質問への回答になるかわからないが、現在来年度の当初予算編成作業を進めている。まず今年度の状況をみているが、8月はGoToで、9月は修学旅行も加わり水量の回復が見られるが、国のキャンペーンなどによる後押しがいつまで続くのかなど見込みづらさを感じる。

委員

現ビジョンの資料をみていると1点気になるところがある。企業債償還元金対減価償却費比率が152.7%であまりよくないと書かれているが現状はどうか。改善されているのか

事務局

令和元年度の企業債償還元金に対する減価償却費比率は52%ということで、平成22年ころより改善している。

委員長

今後、計画書の審議の中で第5章の実現方策でも「安全」「強靱」「持続」に関してご意見をいただきたいと思っているのでよろしくお願ひしたい。

策定するビジョンには鳥羽市の独自色を出したいと思っている。事務局としてはどのようなことが独自性と考えているのか、今後の方向性として話をしてもらえると進めやすい。

事務局

独自色としては、給水人口には現れない観光による水需要という要素が大きい。水量では配水している水の半分以上が営業用であり、近隣の志摩市では2割前後ということと言われていたのだから特徴的ではないかと思う。

また、離島や高低差のある地形により、そこに水を送るために必要なところに配水池を置き、送水のために加圧したり、配水するために減圧が必要だったりということで、施設が多いというのも特徴的なところだと感じている。

委員長

今後の審議の中でさらに独自の点が出てくるかもしれないが、現時点では観光による水需要と地形による施設配置というところが方向性になると思いますので、そこも念頭に置きながら次の説明をお願いしたい。

(2) 計画体系・鳥羽市水道事業ビジョン骨子案について

《事務局より、計画案の第3章までを説明》

委員長

事務局より計画案と関連して資料2・3について説明があったが、どんなことでも結構なのでお願いします。

委員

5ページの「計画一日最大給水量」などが平成20年の認可申請になっているが、認可申請ほどのくらいのペースですか。

事務局

前ページの沿革をみていただくと、一番下の第7次変更により申請して認可されたものが今も有効なものとなっている。今後拡張事業などがあれば認可申請の日付も変わることになる。

委員

拡張事業とは具体的にはどのようなものか。

事務局

第7次であれば、特徴的なものは離島の簡易水道を上水道に統合したというものがある。これまで、高度経済成長の時期であれば、管路の増強であったり、これまで届いていなかったところに広げていくという事業が中心であったが、今はひと段落して、平成20年が最後になっている。

委員

15ページのところで、管路の更新と耐震化のところで、耐震適合率が出されているが、他市と比べてどのような位置になるのか。

事務局

全国平均と比較すると三重県は低い状態にあり、鳥羽市は三重県平均と同程度である。

委員長

19ページに水道料金の比較が出ているので、耐震適合率の他市との比較ということについても鳥羽市の立ち位置がどのくらいかを出せるとわかりやすいと思うので検討されてはどうか。

オブザーバー

耐震化についてですが、鳥羽市では基幹管路の耐震化は年間何パーセントくらいなのか。

事務局

毎年2～3パーセントくらい進めている。

オブザーバー

それであれば、全国平均と同じか上回るくらいだと思う。基幹管路を耐震化していくのは年数がかかるが、見通しのなものがあればわかりやすいと思う。

委員長

9ページに将来推計の人口が出ているが、今後の水道事業が心配になるほど減っていく。

現在の給水量の半分を占めている営業用がどのくらいの状況であれば何とか推移するとか維持できるというのを出すのは難しいか。先ほど5年の計画は出すということではあったが。

事務局

観光課とも相談して、将来の入込客数の見込みや見通しのようなものがあればつながるようなものを考えたい。

委員長

右肩下がりの数値ばかりなので、希望の持てるような目標があればよいと思う。

委員

人材育成についてだが、専門的な技術や技能というのは何か必要な資格があるのか。今後必要な資格を持った人が退職するので補充をするというイメージなのか。

事務局

必要な資格というものもあるが、ここで書きたかったのは「経験」ということである。

水道の工事をする時は水道のバルブ操作を行うが、弁体についた錆が落ちて赤水になって管に入ってしまう。そこで水の流れがどうなっているかとか、ドレンという水を抜くところの操作をどこで行うと集落に流れ込まなくなるかといった「経験」のことである。あと何年かでベテランの技能職員がいなくなってしまう。一般の職員は異動があり上手く継承ができないので課題として書かせてもらった。

委員

職員の採用はないのか。

事務局

総務課の人事担当には相談し、人員の要求は行っているが、市全体としては原則として職員を減らしていくという方向であり、なかなか解決策が見えないところである。

オブザーバー

人材育成という話が出たが、どこの自治体も同じ悩みを持っており、その回答の一つとしては官民連携というものもある。

以前ある自治体から水道技術管理者を民間から出せないかという相談をもらったことがあるが、その場合は第三者委託という方式で業務を全て受けるという方法になる。

経験を持つ水道人がいなくなると、その後がとても困ることになる。新しい方の雇用というのも難しいと思うので、民間の活用というところも検討されるとよいのではないかと感じる。

委員長

ここで一度休憩を取ります。

(休憩)

委員長

会議を再開したいと思います。事務局から説明をお願いします。

《事務局より、計画案の第4章からを説明》

委員長

第5章が「安全」、「強靱」、「持続」の柱になっているので、第3章の13～20ページの同じ項目も参考にしてもらいながらご意見をいただきたい。

委員

言葉の意味を教えてくださいなのですが、「ダウンサイジング」、「アセットマネジメント」、そして補助金で「生活基盤施設耐震化補助金」とはどのようなものか。

委員長

「強靱」に関することになるが、用語の説明を3点お願いします。

事務局

「ダウンサイジング」については、高度経済成長やバブル期などの拡張事業により、入込客が多い時期の施設規模や管の大きさになっている。今それが見合うサイズかという過剰なところもあるので、建て替えや古い管の更新にあたり適正な規模で小さくするのがダウンサイジングである。「アセットマネジメント」はそうしたことを優先順位をつけて計画的に進めるというイメージのもの。補助金については、水道事業は独立採算の公営企業で、他の市の業務のような補助金事業というのはあまりなく、数少ない補助金である。現在、答志島で山の中腹にある水道タンクから重要給水拠点である答志中学校への管路の耐震化を進めているが、そうした事業への補助である。

委員長

用語の説明をもらったが、水道関係者だけではなく、ビジョンを市民に見てもらおうという思いがあるのであれば、専門用語が多いので、「有収水量」や「ポンプ場」、「ダウンサイジング」など、ページの下や巻末に説明を書いておくとわかりやすくなる。

事務局

そのようにする。

オブザーバー

説明の中で、自己水源は水質がいいので塩素消毒だけで配水しているが、県水はそうではないということだった。

また、使用水量は自己水源だけで確保できるのに、二元給水体制ということで、そのために受水費を払ったり施設が整備されていることが気にかかる。財政面も含めてメリットがわかりづらい。

河内ダムは治水ダムということだが、水源に影響はないのか。

事務局

自己水源と県水の書き方に関して、誤解を受ける表現になっているところがあるので見直すようにしたい。

二元給水ではなくても一方でいいのではという点については、昭和55年までは岩倉水源だけで給水していた。その頃は観光客も多く水需要に供給が追い付かず断水することもあったため、三重県企業庁の水を買うこととなった。それにより安定給水が可能になり観光都市として栄えてきたという経緯がある。

岩倉水源だけでも水量は賄えるが、有事の際に鳥羽市は半島地域なのですぐに国や県の支援が受けられるかということ、人口の多い北勢から支援が入り、南部は後回しになるのではという不安もあるので、二元体制によるセーフティという点で水源をもっているべきとは思っている。そこを経営と天秤にかけるとするのは難しく、現在の判断では安心を買っているという状態である。

なお、河内ダムは治水ダムなので、水融通をするというダムではない。

委員長

自己水源と県水の水質の表現については注意した方がいいかもしれない。

それと、自然災害などを考えると、津市でも長良川水系と雲出川水系と県水で3つある。将来的には複数の水源確保が重要になると思うので、市民に分かりやすく伝わるように書きぶりを考えた方がいいかもしれない。水道料金に影響があることなので。

委員

説明にもあったが自己水源と県水については、バランスを考えていく時期かと思う。

また、33ページのバックアップ体制について、商工会議所は建設業関係を中心に防災協定を結んでいる。水道組合の中村さんもおられるが、地震災害からの復旧の時に地元企業が協力することで、スピードも度合いも変わってくると思う。協定を結んでいるところの名称などを今後入る余地はあるのか。

事務局

そのようなこともぜひ入れたい。

委員長

鳥羽市の独自性を入れていくにあたり、計画の上位に総合計画があるが、うまくリンクさせると市の全体の政策を見たときに分かりやすいと思うので、総合計画の中で水道に結び付くようなことがあればお話しいただきたい。

事務局

これまで、総合計画に関しては水道に関する部分に特化して考えてきた。

委員長

全体的には総合計画があるが、横並びで個別計画がたくさんあり、水に絡む分野も他にあるので、横ぐしを刺すということも意識してもらいたいのではないかと思います。

(3) 今後のスケジュールについて

《事務局より、計画策定スケジュールの説明と日程調整の依頼》

委員長

本日予定していた事項はこれで終了したので、第1回水道事業ビジョン検討委員会を終了します。

事務局

長時間にわたりご審議いただきありがとうございました。

きょういただいた貴重なご意見は次回の会議までに水道事業ビジョンに盛り込むように努めたいと思います。

お忙しいところではありますが次回もご出席いただきますようお願いいたします。

長時間にわたりありがとうございました。

閉会